

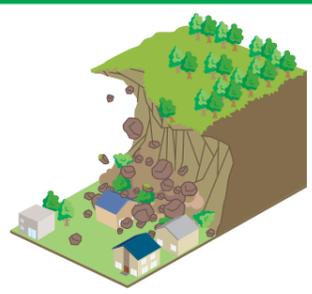
土砂災害の種類と前兆現象

大雨や台風、地震が起きたときには、地盤がゆるみ、がけ崩れや土石流、地すべりといった土砂災害を引き起こす可能性があります。土砂災害から身を守るためには、まず自分の家の周りに危険がないか確かめることが重要です。

また、土砂災害には前兆現象があります。前兆現象を確認したら速やかに避難するとともに、村役場にご連絡ください。

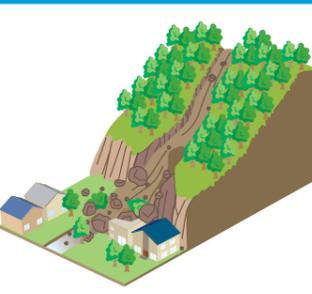
土砂災害の種類には、大きく分けて3つのタイプがあります。自分の周りではどのタイプの土砂災害が発生するのか、確認しておきましょう。

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)



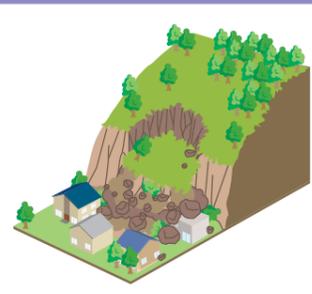
地中にしみ込んだ水分により、急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。突然起きるため、家の付近で起きると逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなります。

土石流



長雨や集中豪雨などによって、山や川の石と砂が、水と一体になって一気に下流へ押し流される現象です。一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。

地すべり



大雨や長雨等により雨水が地面にしみこみ、水の力によって持ち上げられた地面が広い範囲にわたりゆっくりと動き出すものをいいます。

こんなときは要注意 土砂災害の前ぶれ(前兆現象)

五感	移動主体	がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)	土石流	地すべり
視覚	山・斜面・がけ	<ul style="list-style-type: none"> ●がけに割れ目が見える ●がけから小石がパラパラと落ちる ●斜面がはらみだす 	<ul style="list-style-type: none"> ●溪流付近の斜面が崩れ出す ●落石が生じる 	<ul style="list-style-type: none"> ●地面にひび割れができる ●地面の一部が落ち込んだり盛り上がったたりする
	水	<ul style="list-style-type: none"> ●表面流が生じる ●がけから水が噴き出す ●湧水が濁りだす 	<ul style="list-style-type: none"> ●川の水が異常に濁る ●雨が降り続けているのに川の水位が下がる ●土砂の流出 	<ul style="list-style-type: none"> ●沢や井戸の水が濁る ●斜面から水が噴き出す ●池や沼の水からが急減する
	樹木	<ul style="list-style-type: none"> ●樹木が傾く 	<ul style="list-style-type: none"> ●濁水に流木が混じりだす 	<ul style="list-style-type: none"> ●樹木が傾く
	その他	—	<ul style="list-style-type: none"> ●溪流内の火花 	<ul style="list-style-type: none"> ●家や擁壁に亀裂が入る ●擁壁や電柱が傾く
音		<ul style="list-style-type: none"> ●樹木の根が切れる音がある ●樹木の揺れる音がある ●地鳴りがする 	<ul style="list-style-type: none"> ●地鳴りがする ●山鳴りがする ●転石のぶつかり合う音 	<ul style="list-style-type: none"> ●樹木の根が切れる音がある
におい		—	<ul style="list-style-type: none"> ●腐った土のにおいがする 	—

※ 上記は一般的な前ぶれです。すべての場所において必ず起きるというものではありません。

少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう

◆前兆現象を知り、早めに避難

土砂災害の発生前には、前兆現象がみられることがあります。上記のような現象が起こったときは、速やかに避難しましょう。

◆土石流に直面したときの逃げ方

土石流はスピードが速いため、流れを背にして逃げたのでは追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向に対して直角に逃げましょう。



避難の心得

いざというときのために、日頃から避難に必要なものを整理して、避難の手順について話し合っておきましょう。

状況により、早めに避難しましょう

避難情報などが発表されていなくても、状況などから判断し、自主的に避難しましょう。暗くなってからの避難は危険です。



防災メモを持とう

事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難しましょう。



浸水時は足下に注意

マンホールや側溝などに足をとられないよう、長い棒などで確認しながら歩きましょう。



みんなで助け合おう

単独での行動は避け、隣近所に声をかけ合い、みんなで避難しましょう。



浸水時に長靴は厳禁

避難には運動靴が最適です。長靴は水が入ると歩けなくなります。動きやすい服装で避難しましょう。



持ち出し品は最小限に

非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。



持ち出し品は最小限に

普通自動車は約30cmの浸水で走行困難になります。特に、アンダーパスなどの掘り下げた道路は、真っ先に浸水するため大変危険です。



安全なルートで避難

避難経路は、川や水路沿い、地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。



水平避難(立ち退き避難)と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難はできるだけ避けなければいけません。

水平避難(立ち退き避難)



垂直避難



土砂災害から身を守るためのポイント

危険度の確認



1 住んでいる箇所が「土砂災害(特別)警戒区域」かどうか確認

土砂災害発生のおそれがある地区は「土砂災害(特別)警戒区域」とされています。普段から自分の家が土砂災害(特別)警戒区域にあるかどうか、ハザードマップで確認しましょう。

情報の入手



2 雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意

雨が降り出したら、「土砂災害警戒情報」に注意してください。テレビやラジオの気象情報で発表されるほか、気象庁や宮崎県のホームページで確認できます。

長雨や豪雨に注意 1時間に20mm以上、または降り始めからの降雨量が100mm以上になった時には、土砂災害が発生するおそれがあるので警戒しましょう

早めの避難



3 危険を感じたら早めに避難

お年寄りや障害のある人など避難に時間のかかる人は、移動時間を考えて早めに避難させることが大事です。また、土砂災害の多くは木造の1階で被災しています。どうしても避難場所への移動が困難なときは、次善の策として、近くの頑丈な建物の2階以上に緊急避難するか、それも難しい場合は家の中でより安全な場所(がけから離れた部屋や2階など)に避難しましょう。